

Title	第十五回早慶連合史学会；三田史学会例会；三田史学会大会；三田史学会例会；国史談話会；東洋史談話会；西洋史学会例会；昭和四十二年度史学科卒業論文題目；大学院修士課程卒業論文題目
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1968
Jtitle	史学 (The historical science). Vol.40, No.4 (1968. 3) ,p.148(708)- 153(713)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19680300-0148

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

彙 報

第十五回早慶連合史学会

昭和四十二年六月十七日 於早稲田大学文学部二五一教室

研究発表

天皇制国家成立期における平民主義について

早稲田大学 松平 康夫氏

Brea 法令 (Tod 44=IG. 1245) の一考察

慶応義塾大学 真下 英信氏

漢代の部曲について 早稲田大学 美川 修一氏

江戸両伝馬町の道中伝馬役負担について 慶応義塾大学 松崎 欣一氏

公開講演

福沢諭吉の「清英交際始末」とアロー戦争・

大平天国 慶応義塾大学 和田 博徳氏

終了後、早稲田大学文学部会議室にて懇親会が開かれた。

三田史学会例会

昭和四十二年六月二十七日 於三田第一校舎二二三番教室

新入生歓迎会

講演

セビーリヤのインド綜合文書館について 高瀬弘一郎氏

パリーの *Enfants Trouvés* 鈴木 泰平氏

三田史学会大会

昭和四十二年十月廿一日 於三田西校舎五一七番教室

学術講演

イスラーム地理書の性格とその利用 家島 彦一氏

鎌倉時代の足利氏 小谷 俊彦氏

時代転換についての一考察 近山 金次氏

学会報告

記録映画

トルコの旅から 三橋富治男氏

終了後山食学生ホールにて懇親会が開かれた。

三田史学会例会

昭和四十三年一月廿九〜三十日

昭和四十二年卒業論文発表会

於三田第一校舎一三一番教室 (国史)

於三田西校舎五二七番教室 (東洋史)

於三田第一研究室五〇九番 (西洋史)

卒業生送別会

於西校舎学生食堂

国史談話会

昭和四十二年四月二十六日

新入生歓迎見学旅行(千葉県芝山古墳群及び芝山はにわ博物館)

東洋史談話会

昭和四十二年五月十六・七日

新入生歓迎旅行 伊豆・天城山方面

昭和四十二年六月十五日 於西校舎

「哲学者の目的」について

昭和四十二年十月二十日 於西校舎

カンボディアの印象

昭和四十二年十月二十六・七日

松本信広・近森正両先生帰国歓迎兼懇親旅行 山梨・長野(諏訪・尖石)方面

昭和四十二年二月十五日

卒業生送別会 於グリル「火山」

西洋史学会例会

昭和四十二年五月十三日 於三田第一会議室

一九一四年の七月危機における独壇関係

十四世紀イングランドの議会

昭和四十二年六月四日 於三田第一会議室

Brea 法令の一考察

昭和四十二年九月二十日 於三田一研五一〇番

イギリスの古代遺跡訪問

昭和四十二年十月十八日 於三田第二会議室

初期フランススコ会の形態に関する一考察

第四十二年十一月一日 於三田第一会室

G. H. Newman の国家観の成立

高等法院官僚の社会的出自について

——十七世紀の Normandie を例に——

昭和四十二年十二月二日 於三田第一会議室

比較文化——一つの試み——

復興期におけるヨーロッパ統合化問題について

昭和四十二年十二月十六日 於三田第一会議室

ルイ十三世治下の宮廷信心派とリシュリュー

プロイセン農民解放の理念について

昭和四十二年度史学科卒業論文題目

国史学科

菱見 公利 文献に現われた蝦夷記事の分類

木村 妙子 古代末期服色に関する一考察

今野由美子 四月駒牽に関する一考察——古代馬制の一面——

栗栖扶沙子 瀬戸内海東部に於ける古代海上交通に関する一考察

真下 英信

小川 英雄

坂口 昂吉

刈込 綾子

宮崎 洋

菅原 稠

小川 決子

今 無畏子

東畑 隆介

——特に所謂「五泊」を中心に——

松木 茂 石造宝篋印塔の様式的研究——関西形式と関東形式
を中心に——

村川 義郎 古墳発生をめぐる一考察

大島 更子 押領使の一研究

清水 有 律令制地方財政管理権の一考察——飛鳥浄御原令施
行期における国司の権限について——

竹内 洋子 鎌倉時代の惣領制について

田辺 征夫 古代関東の窯業生産に関する若干の考察

田中 利一 記紀に現われた別(和氣)について

谷野 正子 菅野朝臣真道論

宇都宮保宏 吉備氏の服属過程に関する一研究

英 美鈴 声明について——特に天台宗を中心に——

岸川 悠子 平安京の東西官市制度に関する一考察

菰田 正子 中世初期の主従関係の性質

宮崎 有備 我国に於ける陰陽道——その成立と変遷について——

長島 敦子 菅原道真の生涯

内藤 紀子 宇都保物語の色彩

難波 伸子 三条西実隆——学問を中心に——

沼上 浩子 利休の茶

大島 和子 明治四年の「部落解放令」について

坂井満里子 奈良時代民間仏教の実態

高原 慶子 将門の乱について

田中美香子 地藏信仰民間流布の一過程

海野 千春 物忌考——平安時代の貴族社会を中心として——

矢古宇 純 紀清党の研究

山田 隆士 日本の遊戯についての一考察——「ひな遊び」と「ひ
な祭」の関係——

出原由起子 廻り田新田開発過程について

金子原二郎 長崎貿易——市法貨物商法——について——特に市法設定
に於ける地下の運動と地下配分金を中心に——

金子 滋子 対島におけるロシア艦占領

吉良イツ代 齊昭論「夷狄を近付くべからざる事」の一考察

近藤 良子 林羅山の神道思想

栗原 桂子 産物会所の編成替の意図と商業資本について——信
州松代藩と八田家の場合

宮川 岱子 西周——幕末洋学者としての研究——

高柳 洋子 徳川慶喜の將軍職就任に至る事情

外岡 和彦 水戸藩と弘化の勅諭——水戸藩の特殊性からの一考
察——

土屋 和美 江戸の町火消

矢島 佑子 御鷹場の研究——尾張家の御鷹場を中心として——

山崎 佳代 渡辺華山の洋学研究——その思想的動向を中心とし
て——

東洋史学科

相川 陽子 アラビアの婚姻

篠崎 正之 イブン・ハルドゥーソンの国家像

野見山宏子 スーフィズム研究

小川 玲子 ウィグル人とシヤマニズムおよびマニ教

家入 通子 アクバル帝の印度統治について

今井マチ子 チムール帝国の性格

亀田由紀子 スレイマン一世代のカピチュレーションについて

吉田早謀子 アサツシン—中世イスラム世界に於けるその役割—

木下 孝子 第二次中国革命とコミンテルン

櫛笥 孝子 東京義塾とそれまでの反仏運動

春日 道子 マラヤ共産党崩壊の周辺

渡辺 長子 竜の起源について

石橋紀代子 王莽銭考

仁田 浩二 唐代に於ける景教の盛衰

西洋史学科

今村三南子 エリザベス朝に於ける明礬独占

今村 伸子 ピューリタン革命下のアイルランド経営とカトリック同盟

ク同盟

加藤千賀子 シャルルマーニュ帝戴冠に関する一考察

加藤 順子 十四世紀フロレンスに於ける Magnati の没落

川松 寛子 Small Farmers の没落と William Cobbet の政治思想

治思想

小峰花世子 前五世紀アテナイの市民

込谷万里子 ジェントリーに関する一考察—East Anglia の

事例を中心として—

河野 宜子 ピューリタニズムと契約思想—ミルトンを中心に—

草野 徳子 古代イスラエルの予言者ホセアの終末思想

楠 朋子 ピューリタニズムの社会的意義

国分 由恵 トックヴィル研究序説

前田いづみ イングランドに於ける Manor 崩解の一過程

丸山 三保 Wilkes 事件の社会的考察

松本 耐子 南部諸州脱落に関する一考察

井上 勇 アメリカ独立戦争の原因についての一考察

青木 起治 ホッブスと近代社会—C・B・マクファーソンと

K・トーマスの所説をめぐって—

宮川 修司 アメリカ黒人解放運動の性格—黒人の人種的二重

性をめぐる葛藤—

中野 正紘 ジャクソニアン・デモクラシーのアメリカ民主々義に於ける位置

松浦 玲子 アングロ・サクソン時代の封建制

小幡 久子 スペイン市民戦争と英仏の非干渉政策

横山 征宏 フランス革命におけるモンターニュ派政権確立の意義

三岡美穂子 アズテカ王国滅亡の原因

酒井美奈子 一八五〇年より一九〇〇年に至るベルンシュタインに関する一考察

尾崎 道子 アメリカに於ける革新主義

尾崎 道子 アメリカに於ける革新主義

- 大西 康子 一五世紀フィレンツェのプラトニズム
尾原 史子 マコネ地方におけるバン領主権と封建的身分の成立
奥村 聰 青年インテリゲンチヤによる「ヴ・ナロード」運動
杉山 哲重 ヴァイキングのアイスランド植民について
太田 桃枝 イギリスの宗教改革とトマス・クロムウェル
小山 熙美 近世初頭におけるイギリス商人の積極的活動について
- 松下 巖 一九三九年におけるドイツ・ソヴィエト外交関係
鈴木 雅子 イギリスの印度統治の成立
鈴木 智勝 ミュンツァーの宗教改革運動について
田辺 玲子 ペトラルカの古典受容について
高木 正子 スペインに於ける一八五四—六年の革命について
塚本 敏子 フランス絶対王制論
植村 良子 カルヴィニズム論考
渡辺 勝彦 エドマンド・バーク「仏革命の省察」について
渡辺 修 ロシア革命とマフノ運動について
渡辺ヨリ子 ヘルマン・ミュラー内閣の崩壊について
渡辺 義文 十九世紀初頭の合衆国に於ける南北の対立
谷内田昭子 アメリカ外交史上におけるモンロー・ドクトリンの成立
- 山田 明隆 ロシア革命下に於ける労働者、農民の一考察
山下 順子 ジャン・ジョレスに於けるパトリオティズムの意義
米田 靖子 パリ・コンミュニオンとティエール
- 遠藤 挺子 カナダ発展史上の一つの問題点
榎本 淳子 革新主義運動における中産階級の役割
藤原 共代 ソ連攻撃の時期決定に関する一考察——ヒトラーの外交をめぐって——
鮎谷 洋子 奴隸解放問題を中心にした再建政策について
今村 寿子 第二次選挙法改正に関する一考察
細田 朋子 スペイン人のインカ帝国征服とその背景
早川三枝子 ネーデルランドの反乱と分裂に関する一考察
平井 清 フランス革命以来の宗教問題とコンコルダ成立について
- 広瀬 光子 ナチス支配下のドイツ再軍備と戦時経済
広田由紀子 印度の地稅制度確立についての一考察
池田 政巳 トライチケの自由主義の限界
長谷川次郎 北歐新石器文化についての一考察——特にその巨石文化を中心に——
後藤 敏正 対中国の門戶開放宣言におけるアメリカの使命觀
雨宮 和子 チェイムバレンの宥和政策について
荒木田鶴子 ピューリタニズムとピューリタンに関する一考察
- 国史專攻
風間 文子 公宮田経営に関する一考察
村山夫宜子 薩摩藩の雄藩連合運動についての一考察
- 大学院修士課程卒業論文題目

東洋史専攻

湯川 武 十六世紀インド洋におけるポルトガルとエジプト関

係史

池永 佳昭 諸蕃誌の文献的研究

寺田 鎮子 チベット諸宗派抗争時代における地域性の問題

西洋史専攻

菅原 稠 比較文化——一つの試み——

小川 決子 復興期におけるヨーロッパ統合化とアメリカの対欧

政策

刈込 綾子 ジョン・ヘンリー・ニューマンの国家観の成立

真下 英信 クレールルーキア

今無 畏子 ルイ十三治下のカトリック・ルネサンス——宮廷信

心派の敗退とリシュリュウ体制の成立——

昭和四十二年夏季見学旅行記

例年秋に行なわれていたものを本年は夏休み前の七月三日より

七日まで、姫路・加古川・淡路方面に旅行見学した。一行は浅

子・清水・前嶋・近山・志水・鈴木の各先生方と学生、総勢七十

三人の多数であった。

東京出発組は二日夜の「銀河」により、三日午前十時半に姫路

駅に到着、現地集合組と合流、小雨の中をバス二台に分乗して、

まず姫路城に向つた。幸いにも城内見学の際は雨もあがり、薄日

の中に名前の如く美しい天守閣等の建物が我々の眼を楽しませて

くれた。連立式天守閣の複雑な構成はもとより、各曲輪の構成、石垣の美しさはさすがに日本三大名城の一つに数えられるだけあり、更に先頃の解体修理によりよく整備保存されているのにも感心させられた。

城の前の休憩場にて昼食後、進路を東にとり播磨国分寺跡に向つた。寺跡は今は耕地の中に南大門・中門・塔・金堂・講堂の礎石群を残すのみで、それ以外に往昔を伝えるものは何物も残っていない。塔跡の礎石を見ながら、清水先生の説明をうけ、その後、寺跡の北方にある壇場山古墳に向つた。この辺ではかなり大きな全長一四〇米、周濠を持つ前方後円墳で、後円部頂上には長さ三米の長持型石棺が露出していた。次にそのすぐ側の山ノ越古墳を見学した。平地上の一辺五〇米の壮大な方墳で、周濠を持ち、長持型石棺が露出していた。壇場山古墳に続き清水先生の説明を受けた後、我々は本日の予定を終え、姫路市内をバスより眺めながら宿の塩田温泉上山旅館に向つた。夜、一同そろつて浅子先生より明日よりの見学の為め、和様・唐様・天竺様の建物の説明を特に受けた。

七月四日。先ず書写山円教寺に向う。麓よりケーブルで山上まで登り、涼しい山中を大講堂まで歩く。室町期の大講堂・常行堂・食堂の重文建築など、山嶽寺院の典型的配列をよく示しており、大講堂内の釈迦如来坐像及び四天王像は藤原初期の特徴を示すもので、密教の強い雰囲気の中にあつた。また山内には正中三年及び正慶二年の在銘の石仏や、和泉式部の歌塚と伝えられる石